「特別の教科 道徳」学習指導略案

第4学年2組　33 名

指導者　加藤　伊純

1. 主題名 「ゆるす心の広さ」　B－5　相互理解、寛容

2. 資料名 「へらぶなつり」（出典：学研「みんなの道徳④」）

3. ねらい

広い心で自分と異なる人の立場を受け入れようとする態度を養う。

4. 展開

	学習活動（○発問、☆中心発問）と児童の反応（・）	◇指導上の留意点　◆評価の視点
導入5分	1.　アンケートの結果から、人の過ちや失敗に対してどのような態度をとることが多いか考える。 ○人の過ちや失敗に対してどのような態度をとることが多いですか。 ・許せることは多い。 ・許せず、口を利かなくなったことがあった。	◇許すことが多いか、許せないことが多いか、タブレットで事前に回答させる。 ◇全体の傾向を電子黒板に提示し、ねらいとする道徳的価値への問題意識を高められるようにする。
展開35分	2.　「へらぶなつり」を読んで感じたことを話し合い、道徳的価値の大切さを考える。 ○何度も謝る健二の言葉に、明が耳を貸そうとしなかったのは、なぜでしょう。 ・健二のせいで、糸が切れたんだ。許せない。 ・お父さんの大切な「へらうき」だったんだ。 ・ぼくがお父さんに怒られるじゃないか。 ・もう健二とは口も聞きたくない。 ☆明を責めなかった父親は、どのようなことを考えていたでしょう。 ・明はすごく反省しているから。 ・失敗することは誰にでもあることだから。 ・隠さずにきちんと謝ってくれたから。 ・わざとなくしたわけではないから。 ○電話に向かった明はどのような気持ちだったでしょう。 ・健二を責めてしまって謝りたい。 ・健二の気持ちをもっと考えるべきだった後悔。	◇一方的に責めてしまった明の気持ちに寄り添うことで、広い心で接することの難しさに気付かせる。 ◇父親が明を責めなかった理由を考えさせることで、誰でも失敗することはあるからこそ、謙虚な心、広い心で受け止めることの大切さを捉えられるようにする。 ◇電話に向かった明の気持ちに迫ることで、後悔などから、相手への理解を深めることの大切さに気付くことができるようにする。
	3.　自分の生活を振り返る ○あなたは友達や周りの人が失敗したとき、どのように行動していきたいですか。 ・わざとではないことは、責めないようにしたい。 ・失敗は誰にでもあるから、許せるようになりたい。 ・過ちに対して、まずは事情を聞くことを大切にする。	◆広い心で自分と異なる人の立場を受け入れることの大切さに気付き、広い心で受け止めることについて考えを深めようとしている。 （発言・ワークシート・観察）
終末5分	4.　教師の説話を聞く。 ○偉人の名言を聞いて、相手を受け入れるということついて考えましょう。	◇アインシュタインなどの偉人の名言を聞かせることで、相互理解や寛容について考え、今後の自己の課題につながるようにする。